

本論文は

世界経済評論 2021 年 5/6 月号

(2021 年 5 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

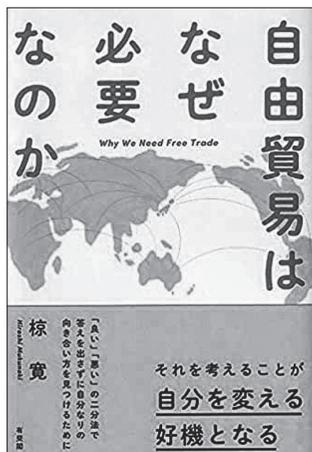
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

自由貿易はなぜ必要なのか

外務省経済局国際貿易課長 安部 憲明



[著者] 椋 寛 (むくのき ひろし)

学習院大学経済学部教授

[発行] 有斐閣, 2020年7月刊

[判型] 46判, 274ページ

[定価] 本体 2300円+税

先入観で食わず嫌いだった人が、好機を得てある食材の美味しさを発見する。本書は、自由貿易という世界で広く賞されてきた食材の最も基本的な美味を初めて知り、改めて確認するための良著である。

ところが、著者自身の自己評価は手厳しい(有斐閣レビュー欄『『自由貿易はなぜ必要なのか』の刊行はなぜ必要なのか』<https://www.bookbang.jp/review/article/639360>)。何と本書が、まず、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定に対する国内の喧しい反対論へのアンチテーゼとしての匂を逃がし、次に、米中間の制裁関税の応酬に対する経済学上の批判書としての時機を逸し、挙句の果てには、コロナ禍で各国がとった医薬品などの囲い込み等への警鐘を

十分に鳴らすことが出来なかった、いわば三振後の「振り逃げ」の書だというのがだ。

しかし、自由貿易の体制や価値が侵蝕されやすい地合いが強まる中、本書が、平易な説明と身近な事例のスパイスを利かせ、食わず嫌いの読者を連れて自由貿易論に「原点回帰」する意義は決して過小評価されるべきではない。

その上で、入門編で美味しさを知ると、その食材がいつも美味い訳ではないことへの不満、健康に悪い成分を含んでいる危険性への疑念、もっと美味しくなる方法を究めたいとの意欲を応用編に求めるのは、人間の自然の成り行きである。おそらく、著者自身も、我々はもはやナイーブに自由貿易論を信奉できず、それが保護主義という外からの攻撃に晒されているだけでなく、実はそれを支えてきた市場原理やグローバル主義、多国間協調、経済と安保の分離といった原則や価値の体系が内から溶解していることを痛感している。

そこで、本書の応用編があれば、是非、グローバル化が助長する格差を緩和する矯正的正義のあり方を巡り、自由貿易論や市場原理の不備を、貿易論の垣根を超え、所得再分配、教育・労働・社会保障の政策一貫性で補強して欲しい。また、経済学と国際法をつなぐ次元で、ハイテク技術を巡る安全保障や感染症を巡る国民の健康等を理由とした「例外」がどこまで許容されるべきか、多国間の合意形成をどう図るべきかといった実務上の難問への経済学上の示唆が待たれる。

このような今日の文脈で「それでも自由貿易は必要だ」とのガリレオの主張は、皮肉にも、天動説が露呈した陋習さの象徴でしかない。食わず嫌いを克服した読者が新たな偏食に陥らないためにも、著者を含む「原則・自由貿易論者」は、保護主義という外敵への防御に加え、自らが拠って立つ理論の再建・刷新が急務だ。

(あべ のりあき)